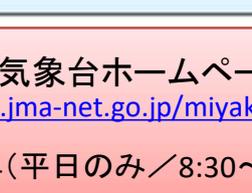




雨の強さと降り方

気象台では、雨の強さを5段階に分けています。実際にどのような降り方をするのか、雨の強さに応じた人への影響や災害発生状況をイメージできる表にしています。大雨に関する防災情報の利用に役立ててください。

1時間雨量(ミリ)	雨の強さ(予報用語)	人の受けるイメージ	人への影響	屋外の様子	災害発生時
10～20	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。 	地面一面に水たまりができる。 	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要 
20～30	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。 		側溝や下水、小さな川があふれ、小規模ながけ崩れが始まる。 
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。		道路が川のようになる。 	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。 
50～80	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。 	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 	都市では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が発生しやすい。多くの災害が発生する。 
80～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。			雨による大規模な災害の発生するおれが強く厳重な警戒が必要。 

